

Ⅲ 神代の杜

第1 基本方針及び経営目標

1 基本方針

本施設は、地域密着型介護老人福祉施設であり、かつ調布八雲苑のサテライト施設である。このことから、調布市と調布八雲苑の連携と情報共有により、円滑な施設運営を行う。

また、地域密着型施設としての機能強化を図り、地区協議会（北ノ台まちづくりネットワーク）、地元自治会や地区の民生児童委員協議会、近隣の小学校、保育所などをはじめとする関係機関との連携を重視し、地域に貢献するとともに選ばれる施設になることを目指していく。

入居者のケアについては、一人ひとりがこれまでと変わらない日常生活を維持できるよう、ユニットケアの特性を活かした支援体制の確立を図る。

2 経営目標

利用率については、以下のとおりとする。

(1) 介護老人福祉施設（小規模特別養護老人ホーム）	利用率	97%
(2) 短期入所生活事業（ショートステイ）	利用率	80%

第2 重点事項

1 地域密着型特養（3ユニット）としての機能を活かしたユニットケアの展開

入居者の生活の継続を図るとともに、各ユニットにおいて入居者が相互に社会的な関係を築き、自律的な日常生活を営むことができるよう支援する。

また、3ユニットという小規模施設の特色を活かして、ユニット別の課題に対し、それぞれのユニットで相互補完しチームケアの確立を図る。

2 適切な人材確保・育成を図るための方策

神代の杜開設時には、正規介護職員と同様の勤務条件であった臨時介護職員が8名であった。しかし、その臨時介護職員が退職し同様の勤務条件で採用が困難となっている。

このことから、1日に8時間勤務できる職員だけの採用ではなく、人手が必要な時間帯で短時間勤務できる幅広い年代での介護求職者や休眠資格者の掘り起しを行っていく。

また、職員育成については、介護技術を向上させるための協議を積極的に行い、情報の共有化による職員間の技術・知識の向上を図り実践に活かさせていけるような職員育成を行う。

3 地域密着型施設としての役割と地域包括ケアシステムの確立について

地域密着型施設として施設サービスの機能を地域に展開し、独自の関係性を構築する方策を検討するとともに、施設機能を地域に還元し社会資源としての役割を果たしていく。

また、2か月に1回開催している運営推進会議で様々な立場の委員から地域の情報の収集を行うとともに、施設の課題の解決策に対しても意見を聴いていく。

なお、今年度も引き続き、北ノ台地区協議会の運営委員として参画し、北ノ台地区における情報や課題を共有し地域コミュニティの活性化の一翼を担えるよう努力する。

4 ユニットケアにおける個別ケアの実践

入居者の生活リズムを把握し、個別ケアおよび自立支援を実践するために、24時間シートを活用する。

また、24時間シートはケアプラン更新時に見直しを行い、ADLの変化や家族の意向を確認し、入居者の状況変化をケアプランに反映させる。